平成29年度 石巻市
地域づくりコーディネート事業
事業実施報告

石巻市湊地区の復興公営住宅入居者と周辺地域における「顔の見える関係」の構築と互助力の向上に向けた住民育成の取組み

2018年3月

特定非営利活動法人ぱんぷきんふれあい会

はじめに

2011年3月11日に発生した東日本大震災から7年が経過し、石巻市内の復興公営住宅の整備は大きく進捗しました。しかしながら、一般の住宅地や道路整備は復旧の途上であり、必ずしも市民を取り巻く環境が震災前の状態まで回復したとは言い難い状況にあります。

また、復興公営住宅に入居する高齢者等の生活不活発病の予防や、同住宅の入居者と周辺の住民との交流促進など、地域を支えるための新たな取組みも必要となってきています。

こうした状況に対応していくためには、関係機関同士の連携による見守りや交流支援の実施に加えて、地域の多様なニーズに即した住民による互助活動の育成や促進を図ることが重要になります。加えて、地域コミュニティの継続に向けて、学生や現役世代といった幅広い世代の方の地域の問題に対する意識を高め、今後の互助活動の担い手として育成を図ることも必要と考えられます。

上記の状況を踏まえ、当法人は「平成29年度石巻市地域づくりコーディネート事業」の補助金を活用し、住民互助活動の担い手の掘り起こしと育成、組織化、および互助活動に参画する住民の裾野の拡大（ライトな互助人材の掘り起こし）に向けた取組みを実施することを目的として、各種事業を実施いたしました。

本書は、同補助金を活用して石巻市「湊地区復興住宅」および周辺地域において実施した、互助活動の担い手の掘り起こし活動などの成果を取りまとめたものです。本書の内容が、市内各地における住民互助型のコミュニティ形成に向けた取組みのヒントになり、高齢者や児童、障害者など誰もが住みやすい地域づくりのお役に立つものとなりましたら幸いです。

最後になりましたが、各種事業の運営にご協力いただいた皆様、各種事業にご参加いただいた地域住民や企業の皆様、また、本事業を遂行するために様々な助言をくださった皆様に厚く御礼申し上げます。

2018年3月

特定非営利活動法人ぱんぷきんふれあい会 代表理事

渡邊 智仁

本書の目次

Ⅰ. 事業の背景と目的
1. 事業の背景
2. 事業の目的
Ⅱ. 実施事業概要
1. 事業全体の流れ
2. 事業実施内容
Ⅲ. 事業に対する評価
1. 本事業における意識啓発交流会・セミナー等参加者向けアンケート結果
2. 本事業に参画した参加者への聴き取り調査結果
3. 本事業に参画した事務局職員への聴き取り調査結果
Ⅳ. 事業の総括と今後に向けた提言
1. 本事業の総括
2. 当法人における今後の取組み

Ⅰ.事業の背景と目的

- 本章では、本事業における問題意識や事業の目的を記載した。
- 併せて、事業開始当初に設定した目標についても言及している。

1. 事業の背景

（１）多様な支援ニーズに即した互助活動の必要性

- 石巻市湊地区における復興公営住宅の整備が完了し、入居者の新たな生活が始まった。しかしながら、新旧住民の交流促進や高齢化が進む同地区における生活不活発病の予防、被災の影響により「生きづらさ」を抱える住民への支援など、新たな地域の基盤を支えるための取組みが求められている。

- こうした現状に対して、社会福祉協議会、地域包括支援センターなどが連携した見守りや交流支援の実施、あるいはより専門性の高い支援の充実に加え、住民における「自助」「互助」の意識を高め、多様な支援ニーズに即した互助活動の育成・促進を図る必要性が高まっている。

（２）現役世代等、将来的な互助活動の担い手の育成・確保の必要性

- 上記を踏まえ、特定非営利活動法人ぱんぷきんふれあい会（以下、当法人）では「石巻市地域づくりコーディネート事業」を活用した、地域支援活動（互助人材の掘り起こしなど）を行い、住民が主体的に企画・運営する交流会や多数の住民が集う地域イベントなどを開催してきた。

- 一方、過去の活動を振り返ると、互助活動の担い手は高齢者が多く、今後の地域コミュニティの継続性を考えれば、学生や現役世代など、より幅広い世代における地域の問題に対する意識を高め、将来的な互助活動の担い手の育成・確保を進めていくことが求められている。

- しかしながら、現役世代は、仕事や子育てなどの忙しさから自らが主体となった互助活動の立ち上げなどを行うことが難しい面があり、そのため手軽に参加できる互助活動の入口となるような機会を設け、可能な範囲で地域に協力ができる仕組みを構築することが重要と考えられる。

2. 事業の目的

（１）本事業の目的

- 本事業の目的は大きく2つある。1つは石巻市の吉野町1丁目、湊町1丁目地区の「復興公営住宅」入居者及びその周辺地域の住民を対象に、町内会と連携し、新たな地域を支える互助活動の中核的な担い手の掘り起こしと育成、組織化を図ることである。
- 具体的には、意識啓発交流会・セミナーや、当法人が伴走した住民自らの企画・運営による実際の互助活動の試行実施などを通じ、互助活動の重要性と活動を立ち上げる具体的な流れに関する理解促進、実践を通じた人材の育成を図る。
- もう１つの目的は、互助活動に参画する住民の裾野の拡大（ライトな互助人材（※）の掘り起こし）に向けた取組みを行うことである。
- 具体的には、地域包括支援センターや子育て支援を行うNPO法人などと連携しながら、比較的参加へのハードルが低い多様なボランティア機会を提供し、同機会への参加を通じて地域の問題に関心を持つ多様な世代の住民の育成を図る。

※本事業における「ライトな互助人材」は、互助に関するボランティア活動に興味・関心があり、活動の補助や協力を行う人のことを指す。

2. 事業の目的

（２）具体的な目標

- 復興公営住宅入居者や周辺地域の住民等の中から、住民主体によるコミュニティ形成活動の担い手を掘り起し、育成する。
- また、子育て世代等の多様な世代を対象に、比較的参加へのハードルが低いボランティアの機会を提供し、将来的に地域の互助活動の担い手となる人材を掘り起こす。
- 過去に本事業を通じて掘り起こし・育成を行った人材による互助活動を、本年度も継続する。

目標項目	内容
住民互助の中核人材の掘り起こし・育成	本事業における住民互助型の交流イベント等の企画運営による実際の互助活動を行い、互助活動の重要性と活動を実施するためのフローに関する理解促進、実践を通じた人材を育成する。
ライトな互助人材の掘り起こし	地域包括支援センターや子育て支援を行う関係機関と協働の下、比較的参加へのハードルが低い多様なボランティア機会を提供し、同機会への参加を通じて地域のことに関心を持つ住民を育成する。
過去に掘り起こし・育成を行った人材による活動	過去に本事業を通じて掘り起こし・育成を行った人材による住民互助の活動を継続する。

II.事業実施概要

- 本章では、事業実施概要として、事業全体の流れ（フロー図）を記載した。
- また、本事業において実施した「①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発交流会・セミナー」「②住民主体による住民互助活動の創出」「③互助活動の入口となる多様なボランティア機会の提供」の概要を整理した。

1. 事業全体の流れ

本事業では、事業目的の達成に向けて、「①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発交流会・セミナー」「②住民主体による住民互助活動の創出」「③互助活動の入口となる多様なボランティア機会の提供」という大きく３つの事業を実施した。また、過去に本事業を通じて掘り起こし・育成を行った人材による継続的な活動についても、フォローを行った。

過去に本事業を通じて掘り起こした人材による継続的活動

当法人によるイベント等の企画・運営の支援
自主企画イベントの開催

当法人企画・運営の交流イベント（落語・コンサート・茶話会等）

住民向け事業の「お手本」提示

①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発交流会・セミナー

【事業内容】：互助活動の担い手となることに興味・関心のある復興公営住宅入居者および周辺地域住民の掘り起こしを行う。
【実施時期】：2017年5月～2017年9月（合同会社「介護の未来」代表 阿部充宏氏による講演）
【事業対象】：近隣住民、湊町地域住民、復興住宅入居者

②住民主体による住民互助活動の創出

【事業内容】：住民互助力を高めるための活動を住民が主体となって実際に企画・運営する。
【実施時期】：2017年6月～2018年3月（バリアフリーマップの作成、ふまねっと教室の開催）
【事業対象】：①のセミナー参加者等

③互助活動の入口となる多様なボランティア機会の提供

【事業内容】：さまざまな世代による互助活動の入口として比較的参加のハードルが低い多様なボランティア機会を設定し、活動の参画を働きかける。
【実施時期】：2017年5月～2018年3月（子育て支援イベントの実施、神楽発表会に向けた衣装作成　等）
【事業対象】：近隣住民、湊町地域住民、復興住宅入居者

事業成果の取りまとめ

- 事業に参加した地域住民に対するアンケート調査結果、参加者や事務局等へのヒアリング結果の取りまとめ
- 住民互助活動の創出に向けた課題と対応策の整理
- 住民互助活動の創出に向けた提言、来年度以降の取組みの方向性検討

2. 事業実施内容

本事業で実施した「①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発交流会・セミナー」「②住民主体による住民互助活動の創出」「③互助活動の入口となる多様なボランティア機会の提供」の主な実施概要は、以下の通りである。なお、過去の本事業を通じて掘り起こし・育成を行った人材については、①～③の一部の運営にも協力をいただいた。

①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発交流会・セミナー

開催日	場所	内容	参加人数
2017年9月30日	石巻市吉野町 on the corner	・介護の未来代表 阿部充宏氏を講師として、「皆で歩くみなと」セミナーを開催。	12名

②住民主体による住民互助活動の創出

開催日	場所	内容	参加人数
2017年6月～3月	石巻市吉野町 on the corner　他	・健康教室「ふまねっと教室」（※）において、定期的にサポーターとして参加し、地域住民をサポート。	336名（延べ）
2017年9月～3月	石巻市吉野町 on the corner 石巻市湊地区	・①の参加者に対して、高齢者疑似体験キットや車椅子を活用して湊地区の散歩介助を実施。 ・実際の体験や地域住民の意見を反映しながら、当法人が伴走する形でバリアフリーマップを作成。	12名

③互助活動の入口となる多様なボランティア機会の提供

開催日	場所	内容	参加人数
2017年5月～3月	石巻市吉野町 on the corner	・NPO法人ベビースマイル石巻と協働し、湊地区在住の子育て中の家庭を対象とした交流会を毎月開催。	122名（延べ）
2018年3月30日	石巻市吉野町 on the corner	・湊小学校や零羊崎神社等の協力の下、神楽発表会を実施。受付の手伝いや、参加者の衣装作成等のボランティアを実施。	32名

※「ふまねっと」とは、北海道教育大学釧路校の北澤一利教授が開発した、認知症予防と介護予防に有効なデュアルタスク運動のことである。

2. 事業実施内容（活動風景：①意識啓発交流会・セミナー）

■ 意識啓発交流会・セミナーで、神奈川県にある合同会社「介護の未来」代表でケアマネジャーでもある阿部充宏氏を講師として招聘した。当日は12名が参加し、住民互助活動の必要性や重要性について学んだ。

2. 事業実施内容（活動風景：②住民互助活動の創出・実践）

- 前述の意識啓発交流会・セミナーの後に、高齢者疑似体験キットや車椅子を活用して湊地区の散歩介助を実施した。
- その後、疑似体験キットを活用した感想や留意点等について、積極的な意見が出された。そうした意見を踏まえつつ、当法人の事務局が伴走する形でバリアフリーマップを作成した。

2. 事業実施内容（活動風景：③住民互助活動の創出・実践）

- 地域の住民を対象に「ふまねっと」運動を活用した健康教室を定期的に開催し、過去に本事業に参画された中核的な人材等がサポーター役として参加者に教えた。

2. 事業実施内容（活動風景：④互助活動の入口となる多様なボランティア機会の提供）

- 新春落語会等の地域交流イベントでは、①意識啓発交流会・セミナー参加者等がイベント当日の会場設営・運営の手伝い、地域住民への声かけ等、積極的にボランティアを行った。なお、過去に本事業に参画された中核的な人材の方も引き続き地域交流イベントの運営の一部を担った。
- また、神楽発表会の発表者の衣装作成といったボランティア機会を提供した。

2. 事業実施内容（活動風景：⑤互助活動の入口となる多様なボランティア機会の提供）

- NPO法人ベビースマイル石巻と協働し、湊地区在住の子育て中の家庭を対象とした交流会を行った。
- 交流会に参加された方の中には、今後、自分たちで交流会の運営を行うことに意欲的な方も見られ、地域のことに関心を持つ住民の育成が図られた。

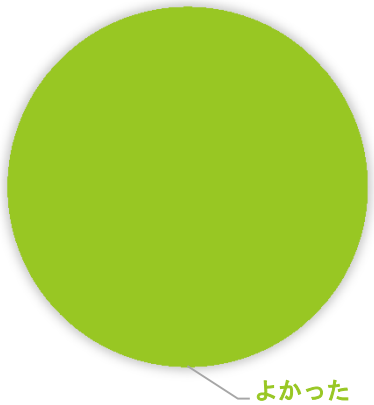
Ⅲ.事業に対する評価

- 本章では、本事業に参画をいただいた地域住民の方々や事業運営に従事した事務局スタッフによる事業に対する評価、所感を記載した。
- 「①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発交流会・セミナー」については、セミナー終了後に実施した参加者アンケートの結果を掲載した。
- また、本事業に参画いただいた参加者や、ボランティアメンバー、事務局スタッフへのヒアリング結果を記載した。

1. 本事業における意識啓発交流会・セミナー等参加者向けアンケート結果

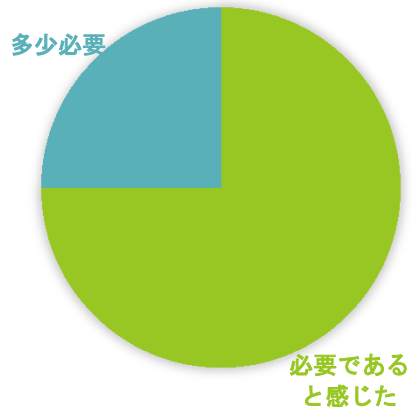
■「地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発交流会・セミナー」参加者からの回答（n=12）

交流会・セミナーの満足度



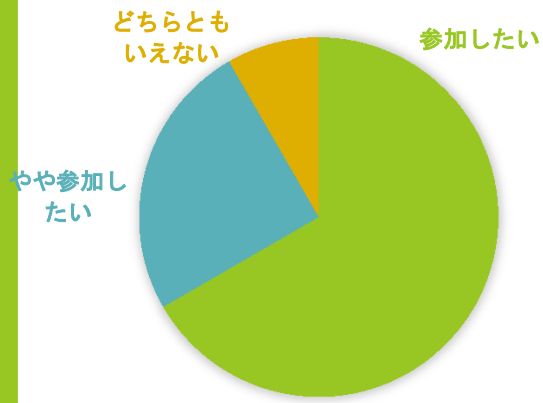
意識啓発交流会・セミナーの満足度についてたずねたところ、全回答者12名中全員が「よかった」と回答していた。

互助活動の必要性に対する認識



交流会・セミナーの受講者に対して「互助活動の必要性」に対する認識をたずねたところ、全回答者12名中9名が「必要であると感じた」、3名が「多少必要」と回答していた。

互助活動への参画意向



交流会・セミナーの受講者に対し、今後の住民間での互助活動への参加意向についてたずねたところ、全12名中8名が「参加したい」と回答し、3名が「やや参加したい」と回答していた。

2. 本事業に参画した参加者への聴き取り調査結果

【高齢者疑似体験キットや車椅子を活用した湊地区の散歩介助の参加者】

- 震災後、道路等の整備が進んでいるつもりでいたが、高齢者や車椅子の方が移動すると考えれば、まだまだ道が未整備で移動が大変だと感じた。
- 自分達にとっては大したことのない段差が、車椅子や高齢者には本当に大変なものだと感じた。
- 高齢者疑似体験セットを初めて使ったが、思っていたよりも大変だった。しかし、とても貴重な体験をすることができた。
- 車道と歩道は分かれているけれども、車がとても怖く感じた。車を運転する者としても気をつけたい。
- コンビニで買い物を行うことすらとても大変だった。誰もが歳をとるものなので、自分のこれからについても考えたい。
- これから、杖をついている方や車椅子の方に自分から声がけができるようになりたい。

【子育て支援イベントの参加者】

- 小物づくりなどは、子どもと母親が一緒に楽しむことが出来る。
- 小物づくりなどは、子どもと一緒に参加できるものであれば魅力的である。
- 季節の行事は家で一人ではできない。交流拠点などで季節のイベントがあると楽しい。
- どのようなイベントが開催されるか、あらかじめ分かると良い。
- イベントに知人がいると参加しやすい。
- 今回のようなイベント活動であれば、自分たちで行うことができるのではないか。

3. 本事業に参画した事務局職員への聴き取り調査結果①

【意識啓発交流会・セミナーについて】

- 今年度のセミナーの内容（疑似体験セットで高齢者の身体状態を体験したことにより、高齢者へより配慮できるようになった等）は良いものであった。
- ただし、地域を考えるセミナーを実施した際、参加者が少なく、顔ぶれも同じである。地域住民の意識の醸成及び町内会役員や民生委員と連携することが必要かもしれない。
- 人を集めるにはセミナー以外に楽しめるイベントを併せて行うことも必要かもしれない。

【地域交流イベントについて】

- 当初は来て楽しむだけだったが、参加者が自主的に手伝ってくれるようになってきた。特に落語会やサーカスでは、案内や会場の設営・運営を手伝ってくれる人が増えた。
- 地域やサロンの中心となる方が声掛けやとりまとめをしてくれるようになったのは、昨年度と比べて大きな変化だと感じる。
- イベントには想定以上に人が集まるようになったが、参加者の互助活動等の意識醸成になかなかつながらない。
- 湊地区について考えると、従来から「ご近所」同士の互助が出来ているイメージだが、復興公営住宅はまだまだ関係づくりの段階であると感じる。我々がイベント等を開催する中で顔見知りの関係が生まれ、少しずつ互助活動につながって欲しいと思う。
- 本事業も3年目となり、町内会、民生委員等との連携や情報共有ができるような、とても良い関係が築けていると感じている。
- 地域づくりの活動を通じて、一番大切なのは、町内会や地域住民との信頼関係であると感じている。そして、信頼関係を築くためには時間をかける事・継続する事である。

3. 本事業に参画した事務局職員への聴き取り調査結果②

【子育て支援イベントについて】

- 子育て支援イベントの活動場所であった on the corner について、当該施設をどのように使用すれば良いか分からない方が多く、「いつでも来て良い」場所という認識をしてもらっていない印象があった。使用方法について周知が出来ていないと思う。
- on the corner の参加者に対して、具体的に使用方法を話してみることや、どのようなことに使いたいかというニーズを聞くなど、使用方法を参加者と一緒に考えることも必要ではないかと思う。
- on the corner のスペースはテーブルとイスしかないため、「子どもを連れてくることが難しい」「おもちゃがないため遊ばせられない」という意見や、「駐車場が分からない」等の意見がある。子ども連れを受け入れる環境が不十分であると考えられる。
- 来てくれた母親が遠慮しないような雰囲気づくりや、いつでも気兼ねなく来れると思ってもらえるようなスタッフの雰囲気づくりも大切であると考える。
- フリースペースに顔が広い方がいると入りやすいとの意見もみられた。
- サロン活動への発展については、若いやる気のある方たちであれば、自分たちですぐにでもやっていけるのではないかと考えられる。ただし、その活動場所として、on the corner を選んでもらうために、現時点で足りないものは何なのかについて、改めて考える必要がある。

Ⅳ.事業の総括と今後に向けた提言

- 本章では、事業を通じて得られた気づきや発見を踏まえ、「住民互助活動」を行う上で必要な取組みついて、いくつかの提言を整理した。

1. 本事業の総括

- 本事業においては、当初に住民主体の活動をリードしていく人材の育成・掘り起こし、地域のことに関心を持つ担い手となるライトな互助人材の掘り起こし、これまでに本事業において掘り起こし・育成を行った人材による活動の継続を目標として設定した。
- まず、「住民主体の活動をリードしていく人材の育成・掘り起こし」については、「①地域住民主体の互助活動に向けた意識啓発交流会・セミナー」において、12名の参加があり、その参加者を中心にバリアフリーマップを作成した。また、参加者からは、今後も地域における活動に関わっていきたいとの意向が示された。
- 一方、「ライトな互助人材の掘り起こし」については、2018年3月の神楽発表会のための衣装作成や子育て中の母親が気軽に集まれる交流会などの機会を住民に対して提供し、同機会への参加を通じて地域のことに関心を持つ住民の育成を図った。
- 加えて、「過去に掘り起こし・育成を行った人材による活動」については、「ふまねっと教室」等、定期的な交流イベントにボランティアとして参画していただいた。
- 上記の点を踏まえれば、本事業の当初目標はおおむね達成できたものと考えられる。

2. 当法人における今後の取組み

■住民互助活動の継続と更なる担い手の確保と対象地域の拡大

- 本年度の事業で掘り起こし・育成を行った人材による住民互助型の事業を継続することで、その人材の互助活動への意識や知識のさらなる向上を図る。
- 一方で、湊地区や周辺地域における課題が多様化していることから、より多くの住民のニーズに応える互助活動の担い手の育成は、未だ不十分であると考えられる。
- 今後は同様の取組みを継続することで、新たに互助活動のリーダーとなる人材の掘り起こし・育成やライトな互助人材の掘り起こしを進め、互助活動の担い手の拡大を図る。
- 併せて、湊地区のみならずその周辺地区へ活動エリアを拡大する。

■住民互助活動における多様な主体間との連携の推進

- 当法人が行う住民交流イベント等を通じた地域づくりについて、必ずしも様々な主体（住民、住民自治組織、支援団体など）に情報が共有されていない現状がある。
- 今後は、地域課題の解決に多様な主体が連携して取り組む体制の構築を目指し、情報の共有や活動時の連携などのあり方を検討していく。

- 最後までご覧いただき、ありがとうございました。
- 内容についてご不明な点等がございましたら、下記までお問合せください。
- 本書のPDFファイルにつきましては、当法人ホームページからダウンロードをいただけます。

特定非営利活動法人ぱんぷきんふれあい会（代表理事：渡邊 智仁）
〒９８６-０８６５　宮城県石巻市丸井戸三丁目３番８号
TEL：０２２５-９６-７８４５／FAX：０２２５-９３-４８７１
電子メールアドレス：t-pump@pumpkin-kaigo.jp
ホームページURL：https://pumpkinfureaikai.jimdo.com/
担当：渡邊、菅野